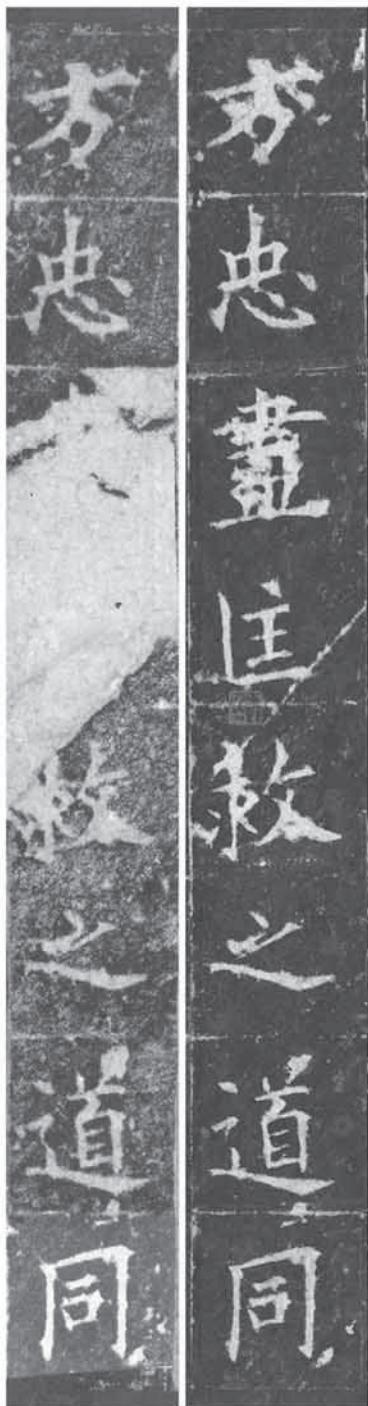


宋拓・明拓の比較

明拓

宋拓



「落ち穂拾い記」(25)

『皇甫誕碑』(下)

(図版②) 皇甫誕碑・博文堂本



隨柱國左光祿大夫石義
明公皇甫府君之碑
鑾青光祿大夫行太子
左庶子上柱國黎陽縣
開國公于志寧製

(図版③) 皇甫誕碑・東博本

隨柱國左光祿大夫
和義明公皇甫府君
之碑
鑾青光祿大夫行太子

(図版④) 皇甫誕碑・清雅堂本

隨柱國左光祿大夫
和義明公皇甫府君
之碑
鑾青光祿大夫行太子
左庶子上柱國黎陽縣

(図版⑤) 宋拓皇甫誕碑

開府儀同三司隨州
刺史長樂恭侯橫銳
植杆威重冠軍北瑞
恭候齊高勃海公

乙申仲夏高山之秀
氣蒸蕭相降昇縛
之沖拂接德依仁厚
真體造合章表質詔

待慶於采蘆恭孝為
基寧取訓於橋梓鋒
朝犀象百練挺於昆
吾真精鵝毛九萬奮
何充之器局被重晉

君類奇微之宏齒見
知魏主斯故它霍衆
慕參括群英者也起
家除周平王府長史
太子左庶子上柱國
黎陽縣

昌黎海博窮於雅文
瞻仰雲孝窮溫清之
考忠盡匡教之道同
前而此後之器局被重晉

剪裝した「一開半(5頁)」に気がついた(図版⑤)。開けて見ると実に丁寧な剪装であり、拓調も古く字画も鮮明であった。明拓本に見られる毎行の一、二字の破損部分が見られない。不思議に思い、印刷資料等と比較した。明代の斜め断裂痕がなく、僅かであるが文字部分に細いひび割れが見られる拓であった(主図版の末1行参照)。僅か二開半(5頁、160字)のみであるが、まさしく「皇甫誕碑」の「宋拓」である。「一開半部分は、東博本と同じ剪装であり、カラー精印の原色版と比較しても劣ることなく、反って字画が鮮明なところが見られる(右頁主図版)。数頁の残葉であるが、とても大事にしている。

皇甫誕碑の碑文全部の出版物は、戦前から現在まで各種のものが知られている。最も有名なのが、戦前に博文堂からコロタイプの精印、豪華な折帖で「北宋拓皇甫名公碑」の名で刊行された本である(図版②)。戦後、「玄社」が書跡名品叢刊の一として「皇甫誕碑」が、更にその後、中国法書選、原色法帖選の一としても刊行されている。三種とも東京国立博物館所蔵の高島槐安居旧藏本の同一本を底本にしている(図版③)。更に清雅堂もコロタイプ精印の線装本を出版している(図版④)。戦前に西東書房が「一字不損 欧陽詢皇甫君碑」として刊行したのは、原石拓でない翻刻(偽)の拓本であり、書風が異なる。皇甫誕碑の優れた影印本は、意外に少なく、底本とされる「宋拓本」は、碑が右上方から斜めに断裂する前の拓である。その中で「…皇甫誕碑の宋拓本は大変に稀で、九成宮醴泉銘の宋拓を10本得ても、皇甫誕碑の宋拓一本を入手することはかなわないと…」記している。そういうえば、あの天下の三井聰水閣高堅氏も「集王聖教序」や「九成宮醴泉銘」等の宋拓本を、数十件所蔵されていたが、『皇甫誕碑』の宋拓本に関しては、何ら知ることがない。この碑の明拓本は、これまでに拓調の異なる五種ほど手にしてきた。20数年

書道芸術院 令和の群像（2021）



第72回毎日書道展「祈り」

『謹んで新春を度ぎ、令和4年が安寧の未来への始まりとなります様心から願い、お祈り申し上げます。』

私の書の原点は、高校生の時、楷書六種を書き分ける種谷扇舟先生の筆捌きを初めて目にした時の驚きと感動!!今までのお習字とは違う「書の世界」を感じる衝動的な体験をさせて頂いたことです。

大学進学のため八戸から上京して落ち着いた頃、小学生の時からご指導頂いていた前衛書家の田名部房香先生から「せっかく東京に居るのだから、どなたか先生に就いて書を学びなさい。」と助言され、迷わず種谷扇舟先生への入門を希望し、房香先生が快く取り組いで下さいました。白扇書道



田中扇溪

会で45年。書道芸術院展で審査会員にさせて頂き30年。期待に応えられない日々、思うように作品ができず苦悩する日々。それでも多くの書友に支えられて書を続けてこられた幸せ。楽しさもあり、感謝するばかりです。

審査会員昇格の時、師からの学びを後進に伝えることを誓いました。扇舟先生から一つでも多くのことを学びたいと思い、また先生亡き後は、萬城先生、辻元先生からのご指導をいたぐため、可能な限り八戸から千葉へ通っています。美術館や展覧会を巡って、自分の中の引出しを一つでも増やし、地元での書活動（社中・高校・保育園・カルチャースタジオなど）で後進を育てる

一人でも多くの方に見て頂き、原拓の魅力、書の奥深さ、楽しさがお伝えできたら、亡き師との約束を少しは果たせるのかな…と思います。数々のご縁に結ばれ、貴重な体験ができる事に心より感謝申し上げます。

コロナ禍に入り2年余。毎年白扇展や美術館で鑑賞していた原拓や古筆を見られない日々が続いています。地元で書に向き合う中、令和3年11月新しく八戸市美術館がオープンしました。一般開放される令和4年3月に、社中展の第10回墨縁書展開催が決まりました。

明けましておめでとうございます

頌

春

令和の年を迎えて早や4年目となりました。本来なら令和2年には2020東京オリンピック・パラリンピックが華々しく開催され、50有余年ぶりの大イベントに日本中が浮き立っているはずでした。何の因果か新型コロナウイルスの蔓延が日本はおろか世界中を巻き込んでの世情騒乱となりました。

令和も4年を迎える新しい気配を感じつつありますが、現状ではまだまだの感があります。新しい年を迎える私たちはどう進路を定め、歩みを進めていけばよいのでしょうか。私たち書道芸術院に集うメンバーは如何に立ち向かえばよいのでしょうか。

書道芸術院展は75回目の節目を迎えました。先達の方々のご努力ご献身をいただきながら安穏としている訳には参りません。現下の極めて厳しい状況下だからこそ、私達の行動が試されます。先達の諸先生方が築かれた書道芸術院75年の歴史、風雪に耐えて維持努力してこられた歴史を継続していかねばなりません。

新しき歳を迎へ、心を引き締め将来へ向けての努力精進をしつかり心に銘じて、一步一步前進してまいりたいと思います。

本年もよろしくお願ひいたします。

令和4年元旦

公益財団法人書道芸術院理事長

辻元大雲
役員一同

壬寅歲旦 大雲書



書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

明けましておめでとうございます。

令和4年の新しき年を迎へ、皆様にとり幸多き歳であることをお祈りします。現下の状況はまだ予断を許さない厳しい状況が続いております。コロナ禍のない、平安な日の到来を心から待ち望んでおります。

本年は本院創立75周年に当たり、記念展開催、併催の「香川峰雲先生遺作展」をはじめ役員作品巡回展、記念作品集発行など記念事業の企画が実施されます。会員諸氏のご協力、ご支援なくして事業の遂行は望めません。よろしくお願い申し上げます。

第75回記念書道芸術院展
一般公募・無鑑査作品搬入・審査終了

前号でお知らせした第75回書道芸術院展無鑑査・一般公募の鑑別・審査が12月11・12日、浅草橋の文具共和会館で当番審査員、審査事務委員、審査部、総務部各担当者150名余が全国から参集して行われた。昨年はコロナウイルス蔓延の影響がひどく、地方の委員を中心として参加ができず、首都圏審査会員を中心に急遽編成替えを行つて実施したが、本年は数名の欠席者で済み、

補充などは最小限で済んだことが幸いであった。

漢字部・現代詩文書部は2日間にわたり、その他の部門は1日で審査から事務処理まで行った。審査結果は翌日発表され、それぞれ結果通知を行つた。

無鑑査作品と一般公募入賞作品(褒状以上)は表装の上、1月27日に東京都美術館に搬入される。

状以上)は表装の上、1月27日に東京都美術館に搬入される。

憚のない意見交換を行つた。

前回展で3×8尺横形式作品がやや多くなり陳列に支障をきたしたためもあるが、院を代表する役員として作品レベルの充実と向上を役員自らが行う

姿勢を率先して行うことにある。

当日欠席者はあらかじめ作品を送付していただき、各部毎の互評を行つた

上で、全員参加により漢字部から前衛書部まで全員の作品について率直な意見交換を行つた。まだ草稿段階の作や2種類以上の制作パターンの方もおられ、相互の意見交換は活発に行われ、

初めての企画であったが充実した互評会であった。

記念展に当たり功労者表彰が表彰式前に行われる。物故者慰靈祭は本展の祝賀会中止に伴い行わない。ご了解を。



審査会風景



互評会風景

第73回毎日書道展主要人事・昇格
人事決定

第75回記念展に当たる、財団法人毎日書道会定例理事会・監事は作品寸法の指定を希望により調整を行つた上で、各自の院展画、予算案の審議とともに第73回毎日書道展の主要人事及び昇格人事が決定した。

第73回展実行委員長 柳 碧蘿

・審査部長 永守蒼穹

・総務部長 赤平泰処

・陳列部長 鈴木響泉

・運営委員 (本院関係)

半田藤扇(漢)、広瀬舟雲(近)、

崎井恵風(大)、板垣洞仙(前)

・昇格人事 (本院関係、*特別昇格)

大内繁軒(漢)、渡辺柱雲(近)

*木村笙園(近)、*松浦錦扇(大)

*荒井柊雲(前)

・会員昇格

谷田熾箋(漢)、酒井優子・波多祥舟、

*原博峰・*本郷清浩(近)、山岡扶

佐(大)、相内珠莉・青木かよ・梅山

久子・大友紅蓉・木暮千晶・佐々木

青霞・須藤彰仁・*荒川空華・*工

藤山房(前)

・副会長 鬼頭墨嶌、辻元大雲

*北野攝山、

改選・第56回展主要人事決定

12月5日高野山書道協会理事会が開催され、3年毎の役員改選などが決定した。役員での院関係の変更なし。

・副会長 鬼頭墨嶌、辻元大雲

*室井玄聟(*新)

・第56回審査委員長 辻元大雲

・運営副委員長 種谷萬城

・運営委員 下谷洋子

・同当番審査員 辻元大雲、種谷萬城、

千葉蒼玄

備えるとともに、作品内容について忌んでいた。

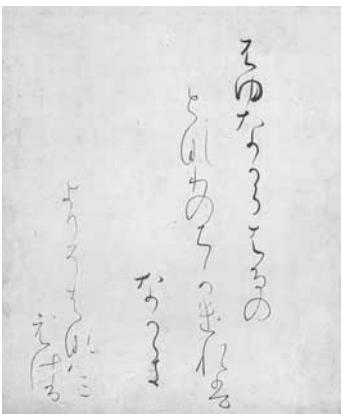
かな基礎基本講座(20)

下谷洋子

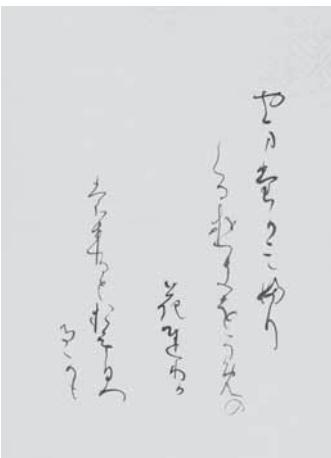
かなの書式 散らし書き④

升色紙による創作への展開 I

升色紙も、散らし書きの学習には最適な古筆です。行間の広狭は寸松庵色紙より変化に富み、行をからませたり重ね書きした大胆な一枚もあります。潤筆での太くゆったりした線から、糸のように細く薄い線へと移行する美しさが特徴です。



参考作品



山高み降り来る雪を梅の花散りかも来ると思ひつるかも（万葉集）

ここでは散らし形式は右と同じにし、墨による明暗のコントラストを強調した。筆は、豊穣な線が出るよう柔らかい柳葉筆を用いている。

5行構成の散らし書きの行間は、各々微妙な違いを見せる。同じ間隔でない所が、かなのが美しさである。行頭・行尾の位置などにも注目したい。

ふゆながらはるの
となりのちかければ
なかよき
よりぞはな_ハくみ
えける

基礎基本講座

現代詩文書基礎基本講座(20)

小竹石雲

一息入れたので今回より古典臨書からのアプローチを再開させていただきます。

原帖 〈敦煌〉



①写実的臨書



②発展的臨書



特徴

①写実的臨書

- 当時の実用書であり、自由で伸びやかなりズミカルな運筆と、斬新な造形感覚が魅力的である。
- 肉筆であるため、運筆のリズムがよくわかる。

②発展的臨書

- 筆は兼毫の中鋒を使用。
- 主に筆の開閉の習得に努めた。
- その際、線に厚みと明るさを心がけた。

①写実的臨書

- 大らかな動きにスポットをあて、長峰剛毛によって表現してみた。
- 線の太細の変化を少し強調して書いてみた。そうすることで霸氣も生まれてきて、楽しさも湧いてきた。
- 筆の抜き方が大切な気がした。

【木簡】

20世紀、スウェーデンのヘデインやイギリスのスタイルなどの探検家によって、楼蘭や敦煌故址などより発見された。これらは木簡、竹簡、帛書という名称で呼ばれ、紙が普及する前に書写するための材料として使用されていた。

木簡



篆・隸・楷・行・草のあらゆる書体が使われていた。古くは戦国時代から、秦、漢、晋のものまで多く出土している。

書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

令和3年11月23日(火・祝)
於 上野精養軒

「清朝書画コレクションの諸相」

講師 鍋島稻子先生

＜公開講演会＞

理事長 辻元大雲

毎年恒例の本院創立記念日講演会は、
昨年新型コロナウイルスの蔓延のため
中止せざるを得なかつたが、本年は何
とか開催することが出来た。

講師は昨年ご依頼した、台東区立書
道博物館主任研究員の鍋島稻子先生に
お願いし、上野精養軒2階にて参加者
も100名程度に制限しての開催となつた。
本来なら倍以上の参加者にお集まりい
ただけるのであるが、致し方ないこと
ではあつた。

演題は「清朝書画コレクションの諸
相」中村不折・高島槐安収集品を中心
に。東京国立博物館と台東区立書
道博物館の連携展をテーマとし、あり
がたいことに展覧会図録を講演会レジュ
メ代わりに鍋島先生から参加者全員に
ご提供いただいた。展覧会場で有料販
売されている図録であり、参加者にと
り望外の賜物となつた。

図録はA4版128頁、オールカラーで、
きめ細かな作品解説、鮮明な図版で、
極めて貴重な資料である。ただし本企
画展は現下のコロナウイルス蔓延のた



講師の鍋島先生



講演会会場

め、当初令和3年1月2日より2月28
日に開催される予定が、両館の閉鎖の
ため延期が続けられ、結局開催は幻と
なった企画展であったため、今回の講
演会はその意味でも大変得難い機会と
なつた。両館連携企画は18回目に当た
る。また令和4年1月2日からは同様

の連携展として「趙孟頫とその時代」
「復古と伝承」が開催されることになつ
ており、次回の企画展も本コレクション
が大きく関連することから大いに参
考となる内容であつた。

講演は手元の作品図録を参考しながら
、併せて先生ご用意のスライド映写
により、具体的かつ詳細にわたる名品
解説、中村・高島両先生のコレクショ
ンが日本人のまなざし。

◎中村不折・高島槐安コレクションの
書告身帖。
◎清朝書画コレクションの形成と流転。
◎近代日本における清朝書画コレクショ
ン日本人のまなざし。

◎中村不折・高島槐安コレクションの
書告身帖。
◎清朝書画コレクションの形成と流転。
◎近代日本における清朝書画コレクショ
ン日本人のまなざし。

などの諸項目についてスライド映写
と作品図録を手引きに1時間半の予定
が2時間近くに延長して聴衆を惹きつ
ける内容であつた。

鍋島先生に深く感謝申し上げたい。

の幅広さと逸品ぞろいの文化的な価
値を再認識させていただく好機となっ
た。

◎中村不折と高島槐安 名品紹介。中

村不折と書道博物館、そして顔真卿自

書告身帖。

第75回記念

書道芸術院展

— 併催 第73回 全国学生書道展 —

2022年2月5日(土)～11日(金祝) 9:30～17:30 2月7日(月)休館日
(入場は30分前まで) *11(金祝)は14時閉室



株式会社日本書道文化院
文化庁登録文化財保護活動実績認定
組織としています。

上野公園 東京都美術館

(ロビー階 第3・4展示室 1階 第3・4展示室 2階 第2・3・4展示室)

一般公募・無鑑査	2021年11月29日
審・審候 書類受付	2022年1月19日
作品搬入	2022年1月27日

主催 公益財団法人書道芸術院
後援 文化庁・公益社団法人全日本書道連盟
毎日新聞社・一般財團法人毎日書道会

第75回記念 書道芸術院展併催

第73回 全国学生書道展

・全国学生書道展指導者作品展示

とき 2022年 2月5日(土)～11日(金祝) 2月7日(月)
休館日

9:30～17:30 (入場は30分前まで) *11日は14時閉室

ところ 上野公園 東京都美術館 ～学生展展示～
2階 第2展示室

(ロビー階 第3・4展示室 1階 第3・4展示室 2階 第2・3・4展示室)

作品募集締切 10月25日(月) 主催 公益財団法人書道芸術院

後援

文化庁・公益社団法人全日本書道連盟・毎日新聞社
一般財團法人毎日書道会・毎日小学生新聞



株式会社日本書道文化院
文化庁登録文化財保護活動実績認定
組織としています。

①敦煌漢簡
とんこうかんかん(大英図書館蔵)
(The British Library)

便處令都尉到承可得

凌胡以次寫傳至廣昌縣。／便處令都尉到承可得。
(130%拡大)

②敦煌漢簡
とんこうかんかん

(大英図書館蔵)
(The British Library)

西部候長治邢謹移
九月卒徒及守狗當稟者人名名也

西部候長治所謹移。／九月卒徒及守狗當稟者人名名也。
(130%拡大)

③敦煌漢簡
とんこうかんかん

(大英図書館蔵)
(The British Library)

美已宜秋卒代仲民受尉史敬
便處令都尉到承可得
凌胡以次寫傳至廣昌縣。／便處令都尉到承可得。
(130%拡大)

入十二月食秞麥一斛。建武卅一年十二月癸巳。宜秋卒代仲民受尉史敬。
(130%拡大)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

※ 特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙(約68×68cm)以内も可(縦横自由))

→ご注意// 今月の特別研究部は当ページ上記掲載の①・②・③「敦煌漢簡」の中から臨書箇所を選び、出品して下さい。

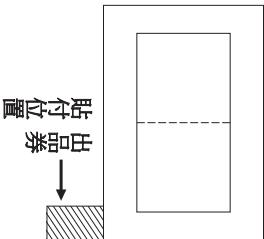
〈解説〉 1900年から1908年にかけてイギリスの探検家オーレス・スタイン(1862-1943)は于阗付近、敦煌、楼蘭と探検を続け、おびただしい書跡、古文書、木簡残紙などを発見した。これを「敦煌漢簡」という。その書体には古隸、八分、草隸(隸書の速書)のほか章草など

んど草書に近いものも見られた。このことが前漢代すでに草体化した字が日常書写に使われていたことが明らかになった。また、漢字の書体の変遷過程を知る上でも貴重な資料である。左掲の「敦煌漢簡」はすべて大英図書館に所蔵されている。

(編集部)

* 色紙の原寸メタリック×130mm
表示して下さい。

書籍(의서)斗魚叶*



〈半紙ヨコ形式に限る〉

(公益財団法人阪急文化財団蔵)

〔解説〕「絵色紙」は、伝原成筆「升賞」の筆記で、「色紙」とともに、「三色紙」と呼ばれ、平安朝屈指の古筆として尊重されている。古今和歌集「万葉集」などで、方形の料紙一枚に歌一首を縦書きにしていてある。もともと古歌を書き写した歌集の断簡としで、この鳥の子の料紙を一折りにして、三十三枚集成した冊子本である。

※掲載図版・45%に縮小

特別研究部臨書課題

特別研究部臨書課題
かかんで研究部臨書課題
左記の古書の持載部分の歌一首を書き。
別紙を裁断して貼付可。半紙半紙サズに切って使用のこと。

(小野道風事)

一

東坡集

真鑑書叶

214

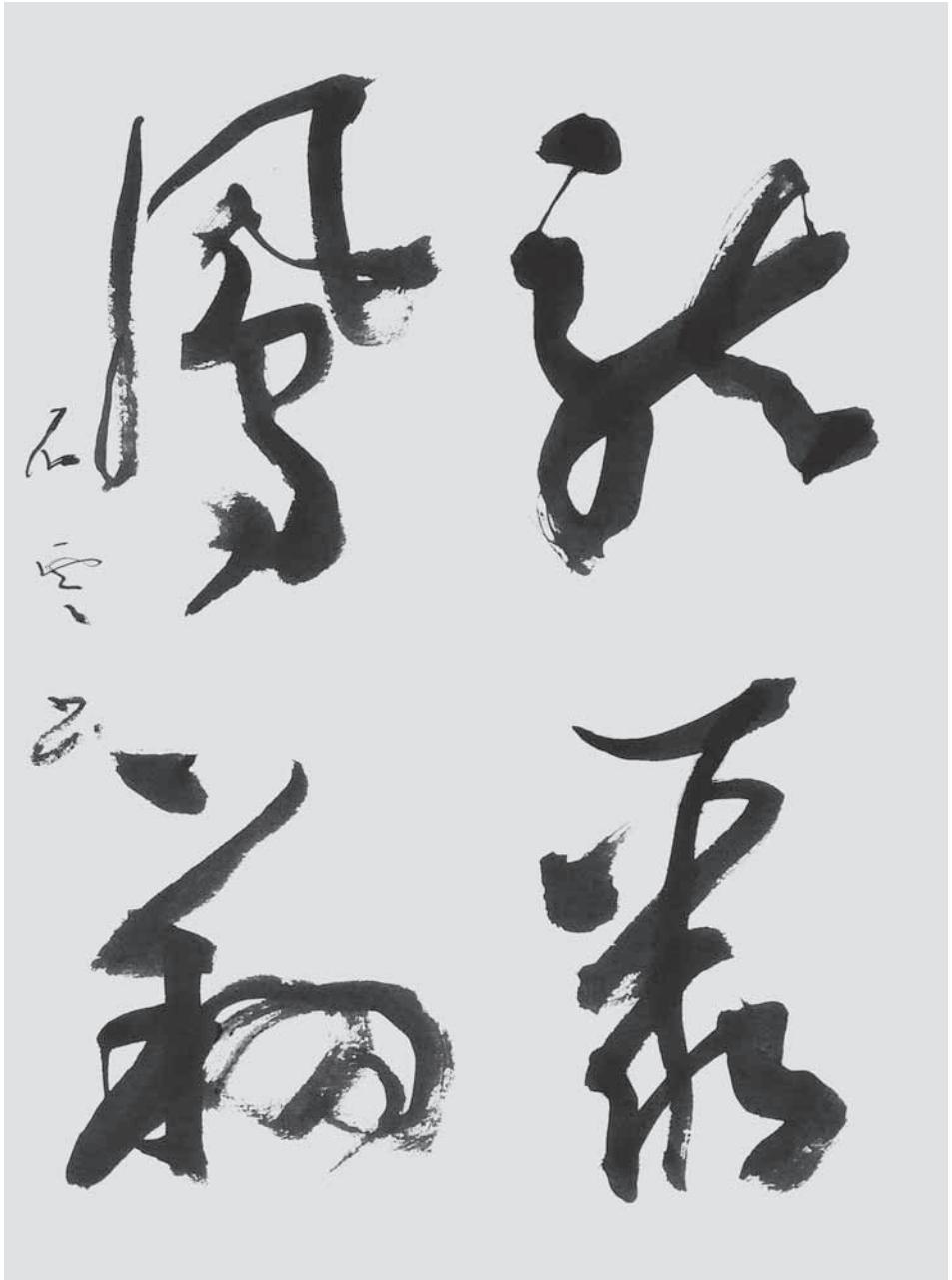
龍聚鳳翔
(りゅうしゆほうしょう)

習い方解説 四
小竹石雲

大空を竜が飛翔し、鳳が舞う、
の意。この上なくめでたい光景。
竜や鳳凰は、麒麟や龜とともに
古来より中国に伝わる四靈の一
つで、めでたい動物とされる。

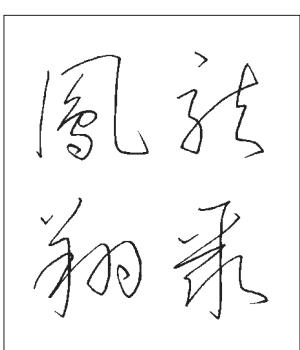
おめでたい語句を草書で表現し
てみました。

誤字にならないよう十分字典
で調べて書きましょう。曲線が多く
なってついついダラダラして締
まらない作品になります。文字
を支える直線をうまく取り入れ
ることで、曲直とわず筋金の入っ
た線になることが大切です。又字
形に変化をつけながら四字に統一
感をもたせてください。書譜のも
つ動きと、懷素の千金帖に見る、
少し速度をおさえて滋味な線の融
合に苦慮しました。皆様も複数の
古典の融合にも挑戦してみてくだ
さい。



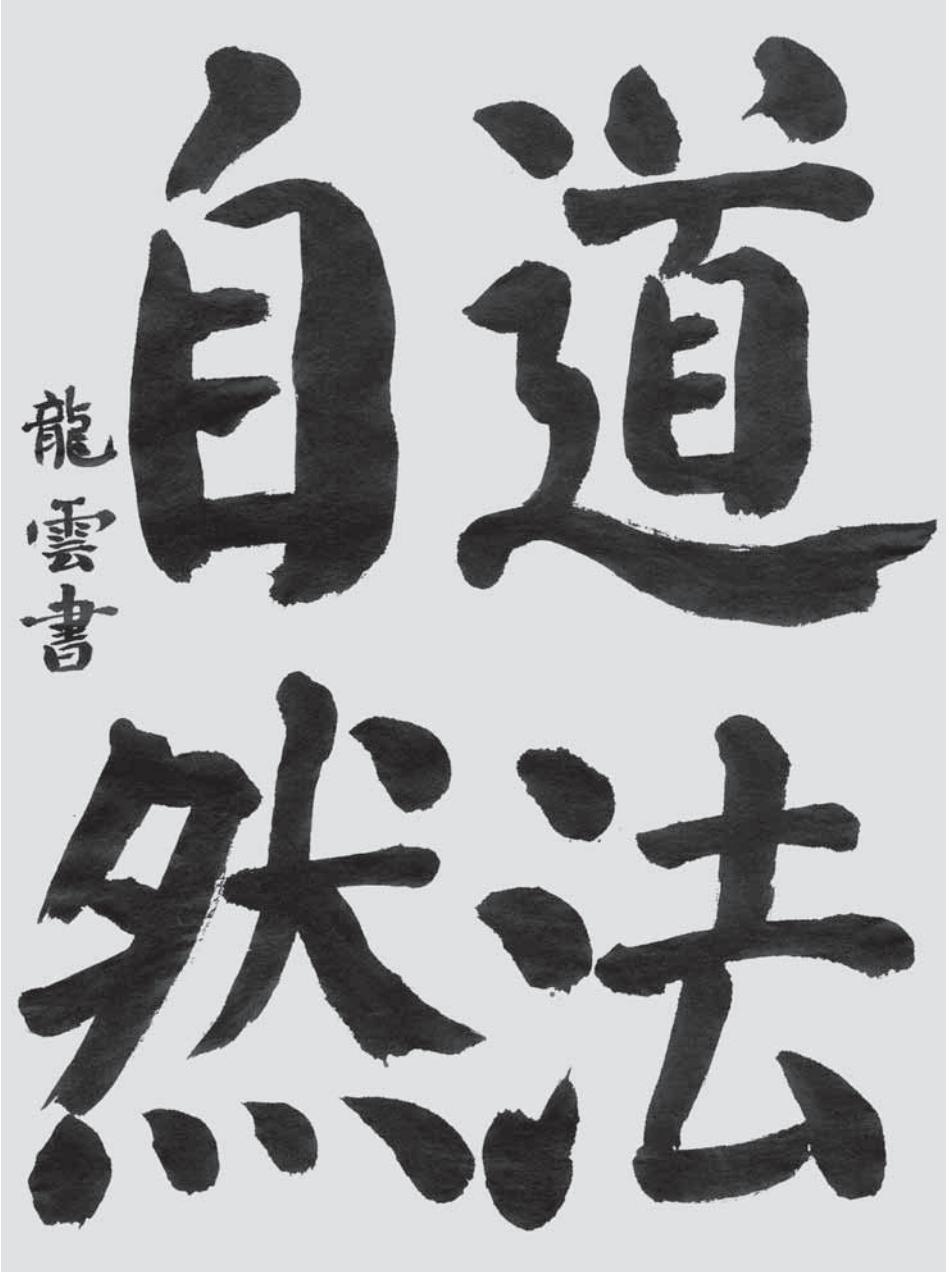
書体=自由

参考 骨書き



前田龍雲

道法自然
(老子)
(道は自然に法る)



〈顏氏下廟碑〉

筆法を参考にしました。顏法の楷書は明朝体活字の元とされています。字形はふっくらした向勢。起筆・終筆・転折に特徴があり、外柔内剛の線質を心がけ線の途中にじんわりと力を込めて、波法は伸びやかに書いてみました。

老子の「人は地に、地は天に、天は道に、道は自然に法る」つまり人の歩む道は自然の法則に従うべきで、作為があつてはならないという意味です。何事も泰然自若で構えていることが出来れば良いとの思いでこの句を選びました。

中唐の大家である顏真卿が書いた自書告身帖や顏氏下廟碑の楷書

筆法を参考にしました。顏法の楷書は明朝体活字の元とされています。字形はふっくらした向勢。起筆・終筆・転折に特徴があり、外柔内剛の線質を心がけ線の途中にじんわりと力を込めて、波法は伸びやかに書いてみました。

習い方解説 ④

石井明子

山里は霞みわたれるけしきにて
そらにや春の立つを知るらん

(西行)

「山里の空が一面に霞みわたった
その情景で曇でなくても春が来た
ことを知るだろう。」の意。

作品を書くときは、見る人に何を

伝えたいかという思いから出発しま
す。そのため、時間をかけて題材
を選び十分に鑑賞します。難解な内
容でないことも常に心がけています。
紙面が『うとうしくない』こと
を第一に考えます。

○書きすぎないこと

○墨量は過多でないこと

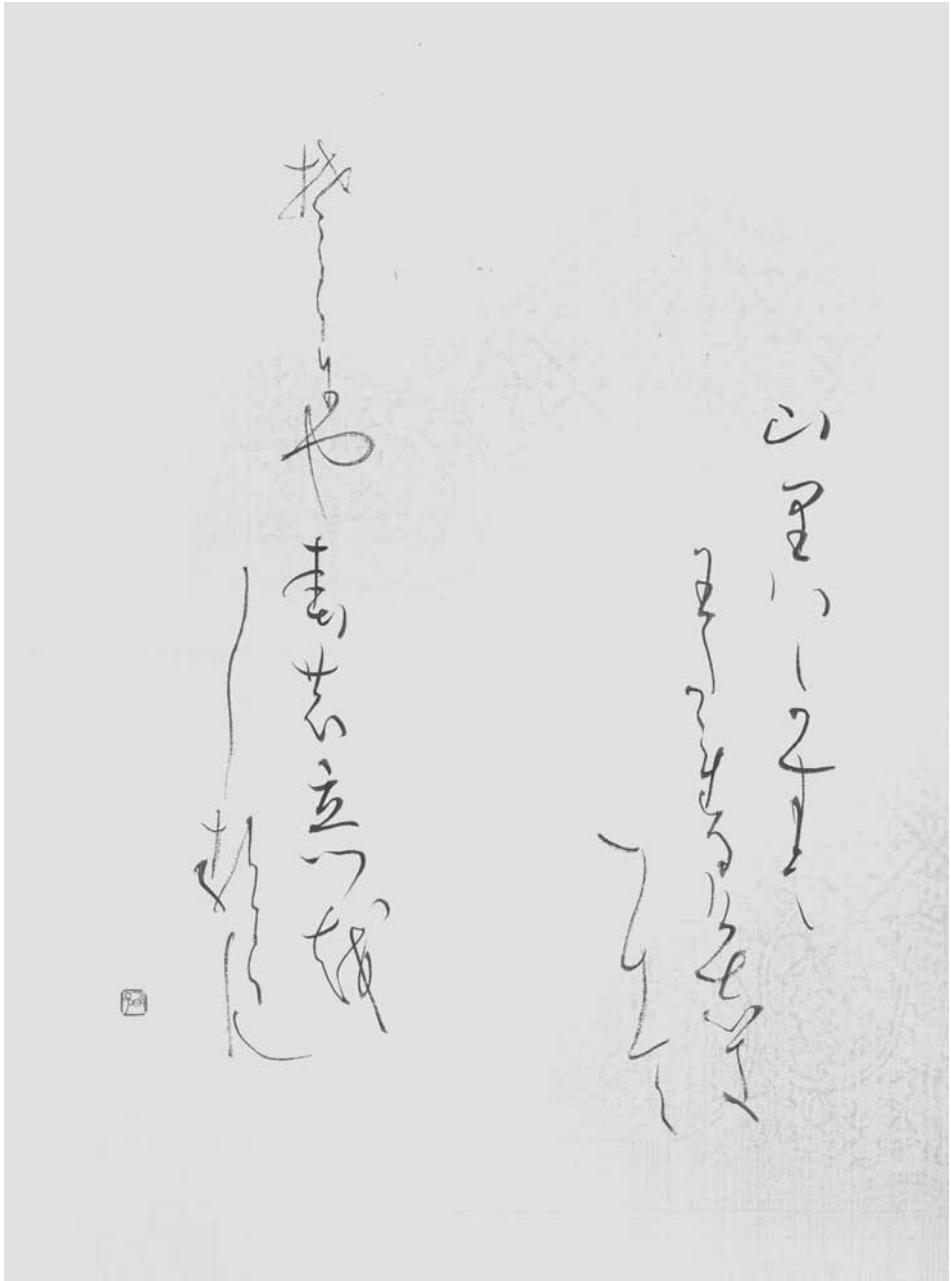
○字粒が大きすぎないこと
等です。全て控えめの方が、かな作
品は美しいと思います。それで作品
が成り立つには、線がしつかりして
いることが求められます。日頃の学
習の成果を結集して下さい。

* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)
を使用しましょう。

よみ方

山里は(八)霞(可す)み(二)わ(王)た(多)れ(連)る(留)け(介)し(志)き(支)に(耳)て(天)
そ(楚)らに(尔)や(也)春の(農)立つ(川)を(越)しる(類)らん

創作

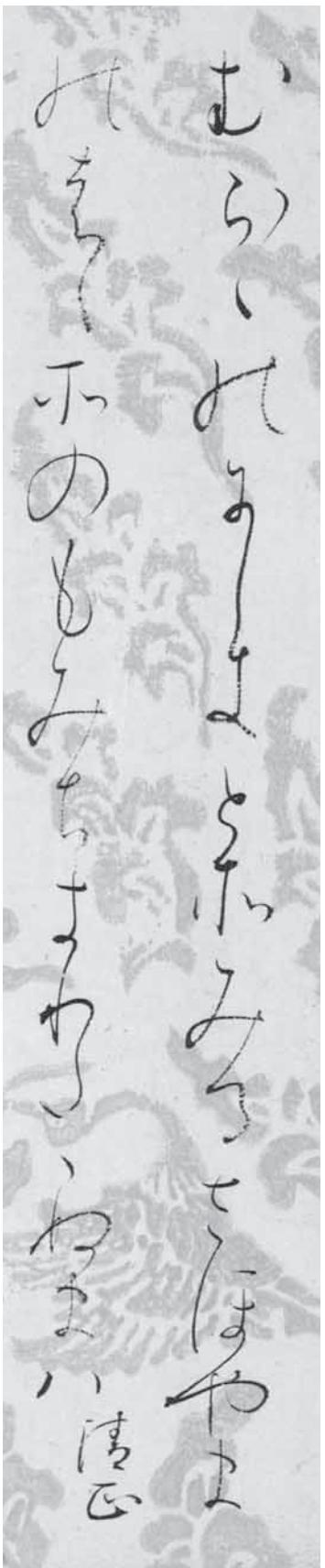


かな規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真拡大20%)
掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集

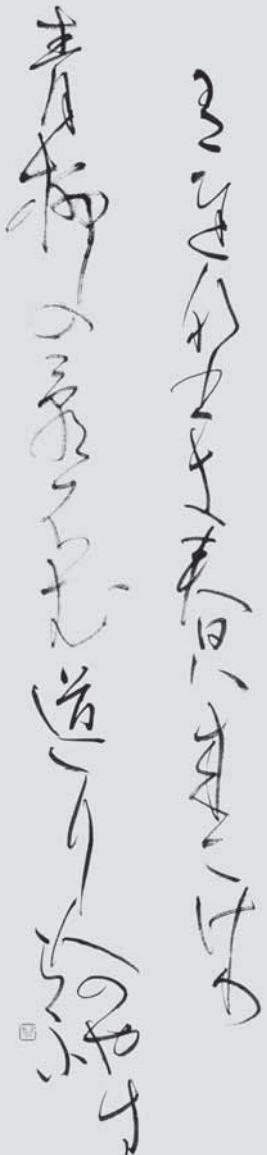
(掲載写真拡大20%)



習い方解説 (一)

松村くに子

うちなびき春は来にけり青柳の
影ふむ道に人のやすらふ
(大宰大式高遠「新古今和歌集」)



かな条幅規定【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

松村くに子選書

今回、行の変化を出したいと思
い1行目を少し短くしましたが、
そのため2行目の字数が多くなり
ました。そこで行末に2字添える
形をつくりました。この場合、字
粒は小さめにします。2行目行頭
は漢語を生かし字粒も大きく展開
して盛り上げました。墨継ぎの墨

* タテ形式に限る

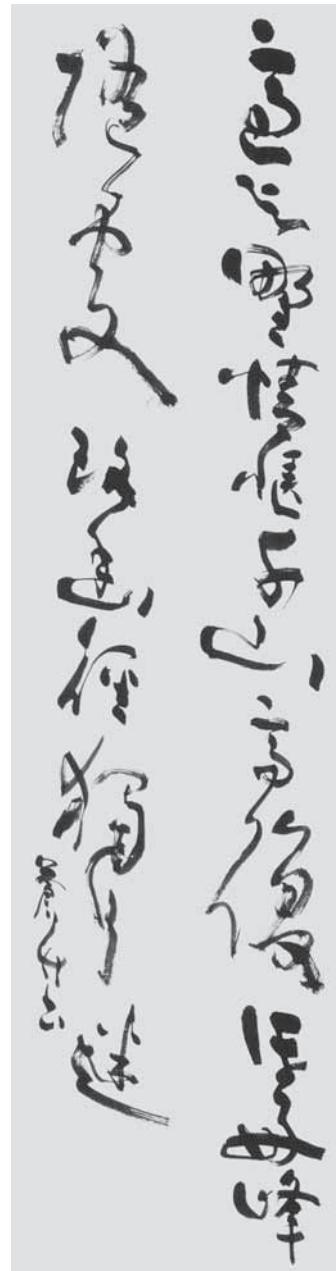
よみ方

う(有)ち(運)な(那)び(悲)き(支)春は(八)来に(一)けり(利)

よみ方 青柳の影ふ(不)む道に(耳)人のやすらふ

創作

名 越 蒼 竹



適興野情愜 千山高復低 好峰隨處改 幽徑獨行迷
(適たま野情と愜い 千山高く復た低し 好峰隨處に改まり 幽徑独り行きて迷う)

書体=自由

字形を傾斜させるのが流動性を高めるのなら、横画を右上がりに書くだけでなく、右下がりに書くのも理論的には可能です。ただし、時粒が揃うと極端に品が下がるようなので、小さい文字を増やし、時折大きい文字を混ぜた方がよいと気づきました。一般的でない書き方ですが、行間をしっかりとれば少しはマシになるようです。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 四

川 島 舟 錦

陸上も柔道、野球、水泳、スケート、ピアノ、将棋：若い皆さんの輝ける才能、人並み外れた努力とその積み重ねに圧倒される。はじめから目指すところが違う。指導者について考えさせられる。

どうか、参考にとらわれることなく、リズムや気脈を少し意識して迷うことなく自由に筆を走らせてください。

書体=自由



四海浪平龍睡穩 九天雲靜鶴飛高
(四海浪平かにして龍睡ること穩やかに 九天雲静かにして鶴飛ぶこと高し)

（圓悟語錄）

四海浪平睡穩 九天雲靜鶴飛高
(四海浪平かにして龍睡ること穩やかに 九天雲静かにして鶴飛ぶこと高し)

小林琴水

心を洗つてくれる「蓮の花」を見つけよう

蓮と観じて自淨を知り、

薺を見て心徳を覚る。

(般若心経秘鍵)

ときには自分の心を洗つめ直すこと

琴水

「蓮の花を見ては自分の心が清浄であることを知り、その実を見ては心に徳がそなわっていることを思う」という空海のことばです。蓮はどんなに濁った泥沼に育っても、その花はけつして泥に染まることなく、本来の清浄な姿を見せてくれます。また薺のうちから中に実を持つていることから心には本来徳がそなわり、だれもが仏性を持っていることにたとえられます。

心を洗つてくれる「蓮の花」を見つけよう
蓮と観じて自淨を知り、
薺を見て心徳を覚る。
(般若心経秘鍵)

ときには自分の心を見つめ直すこと

空海「黄金の言葉」より

- ◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
- ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)
- 「注意!! 用紙の大きさ」「ばらつきが見られます。用紙サイズ(14.8×10cm)を守つて下さい。

睦月 小寒 北海道 御年賀

睦月 小寒 北海道 御年賀

謹んで新しき歳のお慶びを申し上げます
謹んで新しき歳のお慶びを申し上げます

大隅晃弘

(楷書) 睦月 小寒 北海道 御年賀
(楷書) 謹んで新しき歳のお慶びを申し上げます

(行書) 睦月 小寒 北海道 御年賀
(行書) 謹んで新しき歳のお慶びを申し上げます

基本用語

「睦月」旧暦一月の別称。「小寒」二十四節季一つで、寒さが厳しくなり始めるとき。1月6日頃。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品
各部総評

No. 727

かな部 師範 本間みち子

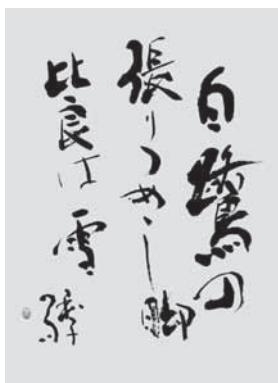
誠実な表現は平素の地道な学習態度に裏づけられ、作者の美意識と相俟って品格ある美を生んだ。
◎かな部総評 過小の字粒、布置の作が多出で残念。字数の違いだけではなく異質の文字と捉えて表現を考えたい。俳味を！（明子評）



かな条幅部 準師 池田 信子
後半の墨量がやゝ多く残念だが、中央の軽快なリズムは快く、動きのしなやかな大きさに惹かれる。
◎かな条幅部総評 創作に慣れない方は無理に創らず、手本を参考にして太細や行の流れなど学んでほしい。墨液は不可！（洋子評）

現代詩文書部 特選 成田 春子

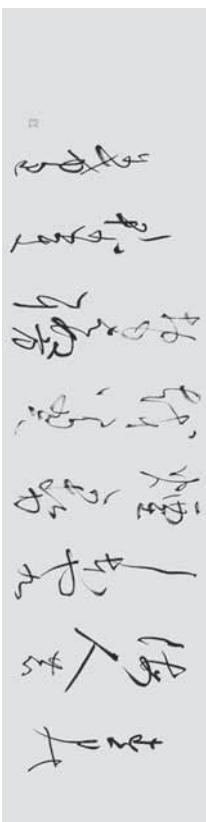
軽やかなリズムで、潤滑・細太・疎密等の変化をさりげなく挿入、かつしつかりと取り入れている。
◎現代詩文書部総評 読める文字を書けば良しと思っていませんか。基本講座の熟読を！（宗苑評）



漢字条幅部 師範 玉渕 良章
柔毫筆を巧みに用い、渴線の美しい作。筆勢があり、躍动感に溢れ、変化多彩で表情が豊か。



◎漢字条幅部総評 上級は流動性に富んだ行草書が多く見られたが、個性豊かな篆隸楷書作品もあり表現多様。誤字には注意。（萬城評）



前衛書部 特選 萩原 綾雪

線の力強さに好感が持てる。多彩な線質で、調和のとれた作品となっている。
◎前衛書部総評 作品が作者の心を素直に表現できる場所、印にも工夫が必要。（仙岳評）



◎漢字条幅部総評 上級は流動性に富んだ行草書が多く見られたが、個性豊かな篆隸楷書作品もあり表現多様。誤字には注意。（萬城評）

漢字部 師範 高野 水仙
小気味よいリズムの運筆が紙面に動きを与えている。骨力を感じさせる線情も魅力的。
◎漢字部総評 上級者の書体は多样であるが字形の不安定な作が多い。下級の楷書も含め、安定感ある造形力の養成を。（大雲評）



ペン字部 師範 佐藤 祥扇

着実な美しい運筆で全体バランスもよく魅力ある作品に仕上った。更なる完成度の高さを期待します。

◎ペン字部総評 字形の安定した作品が多く好感が持てる。落款への配慮によりさらに精度が上がると思います。（仙草評）

（一切経開題）
欲望を抑えるだけでも心は浄化される
祥扇書齋

実用書優秀作品

選評 大平邑峰

◎実用書部総評

厳選なれど毎月のたゆまぬ努力に脱帽である。そうした基本を大事にした学習が結実したのか、全体的に書写能力の向上を感じた。（邑峰評）

特選 苗代佳恵
安定した筆致見事。気の緩みなく
最後まで書き通す力量に感服。

晩秋立冬ご健冬の訪れを
街路樹もすかり葉を落とし冬の装いに
街路樹もすかり葉を落とし冬の装いに

特選 加藤翠陽
文字の構えが大きく堂々としている。行書の運筆も滑らかである。

晚秋立冬ご壯健冬の訪れを
晩秋立冬ご壯健冬の訪れを

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 田村鄭雲 西川翠嵐 倉林紅瑤

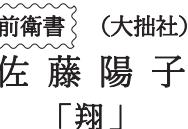
か な (水茎)
清 水 蘭 舟
「夕辺」



◆行間に広狭をつけ流れを強調した力作。すつきりと爽やかだが、反面線が甘いので骨力を養ってほしい。(洋子評)

清水蘭舟書

大作の部



◆上部から下部への流れよく、大小の造形をバランスよくまとめた。濃墨の方が線に深みが生まれ、潤渴がさらに冴えたのでは。

(紅瑤評)



現代詩文書 (粹仙)
藤井龍仙「散步」



60×45cm

◆鋭い細線と緩やかな太い線のコントラストが立体的な空間を生む。曲線と直線、疎密を調和させ格調高い。

225×52.5cm

臨書 (千葉) 平野笛舟 「伊都内親王願文」

◆半切横に、難度の高い伊都内親王頤文の特徴的の構成を巧みに駆使し、格調高い臨書作となつた。(紅瑠評)



平野笛舟臨

137×35cm

若葉	工藤	山房	「かな」	大友	蓮紅	紅瑠	松本	秀皋
「漢字」								
原島	春汀	澪	明琴	勝	雅雲	豊嶋	積田	大雲
中嶋						田畑	石田	たか
春汀						豊嶋	石田	八街
澪						勝	雅雲	たか
明琴						雅雲	豊嶋	小映
勝						豊嶋	積田	天満
雅雲						積田	石田	坂
豊嶋						石田	中嶋	原島
積田						中嶋	原島	紅瑠
石田						原島	春汀	「漢字」
永皇						春汀	澪	秀皋
月						澪	明琴	大友

（創作の部）
〔漢字〕
四枝 及川 豊流
麗澤 富田 瑶翠
「かな」
卯月 木村 関泉
〔現代詩〕
蒼風 笹木 蒼風
蒼香 高橋 蒼香
仙台 熱海 桃翠
大雲 阿部 惠泉

總出品點數
73

創作の部	(37点)
漢字	5点
かな	4点
現代	18点
篆刻	0点
前衛	10点
書の部	36点
臨書	34点
漢字	2点
かな	1点

小品の部

〔臨書〕(清月) 境野和子「関戸本古今集」

部分拡大



境野和子臨

61×182cm

◆弾力のある関戸をよく掌握し、慣れているためか料紙に対する墨量の扱いも見事。しかも自然で美しい。

(洋子評)

〔臨書〕(紅瑠) 相澤敦子「伊都内親王願文」

部分拡大



相澤敦子臨

79×182cm

◆2尺×6尺の藍紺紙を横に墨泥を用いた格調高い全臨作である。文字の大小の変化、打ち込みと波打つような線みごと。

(翠嵐評)



漢字
(もくせい)

青木藤漣
「豊楽亭遊春」

「豊楽亭遊春」

創作の部(27点)
漢字—3点
かな—7点
現代—2点
前衛—15点
漢字—18点
かな—2点
臨書の部(20点)
漢字—18点
かな—2点

総出品点数
47点
(創作の部)
「かな」
奥田藤井 清華
「前衛」
一弘工藤 和香
紅瑠 佐藤 成美
青蓮 山崎
篤信 三浦 恵琳
青蓮 佐々木 藍水
松風 西條 松雲
紅瑠 粟原 りか
容洲 阿部 昆里
(臨書の部)
千葉 竹浪
紅瑠 木暮 千晶
紅瑠 金井みどり
秀恵 阿部 雅悠
青山 熊谷 青山
土氣 杉田 祥風
書游 庄司 咏艸
英峰 吉瀬 彩雨
「かな」

◆単体と連綿を織り交ぜての行草書。ねばりのある線質と明るい行間が見る者の目を楽しませてくれる。

(翠嵐評)

現代詩文書
(宗苑社)

白井真理
「ホワイトワールド北の情景」



白井真理書

240×60cm

◆大胆な墨の潤渴を用い、沈着した箇所と軽快な動きを操り、空から雪が舞い落ちる景色が見える快作。(鄭雲評)

(鄭雲評)

〈大作の部〉

漢字研究部
(伊都内親王願文)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



梅田紅雨

漢字研究部 総評

原帖の特徴を良く理解し、運腕大にして、のびのびと表現し、緩急や抑揚をも見事に表現しています。また、俯仰法を駆使した用筆で表現していることから、平素の学習の様子を伺い知ることができます。

多くの作品から、自由にのびのびと運筆し、まさに書くことを楽しんでいる様子が感じら

れました。今回の古典は自由奔放に書かれてはいますが、根底には正確な筆法があつてのことだと思います。基本の学習があつてこそ、多くの秀作がある中で、誤字も多く見られたのは残念です。特に多かったのは「藝」と「遂」の2文字でした。臨書する前に字典で調べてから書く習慣を身につけて下さい。



真蒼峰美明三千葉風生艸香子

真り碧英美月津華か泉子子華

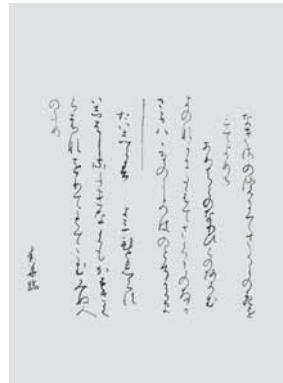
恵茉正武桃素理子悠枝代子子

翠日良鳳晶藤向綾子子仙子瓊

かな研究部
(関戸本古今和歌集)

選評 佐 藤 希 雲

今月のホープ作品



宇田川 春 華

◎かな研究部総評

丁寧な臨書、力強さを意識した作、さまざまなもの主張のある作品が集まりました。ただ、多くの作品が後半部の観察に難があり、品位を落としていました。

かな研究部成績表

〔特別昇段級試験臨書課題〕

※下記の写真掲載部分の中から規定の文字数を
臨書する。掲載以外は違反となります。

天子之命問諸侯之俗／延譽而出周境陳詩而／察齊風還授宣納上士



蘇慈墓誌銘

漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

夫子膺五緯之精踵千年之聖固天縱以



孔子廟堂碑
(楷書)

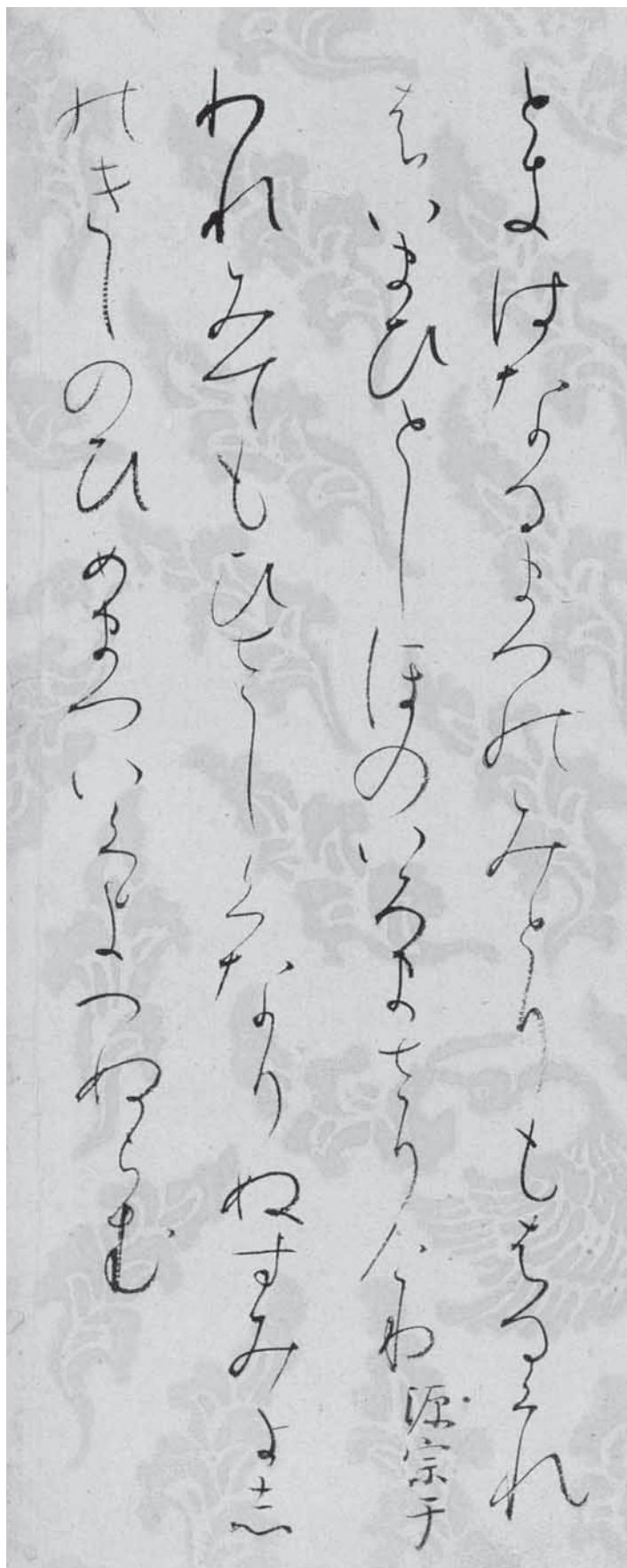
漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

まみをのみおもひ
いつはゆきのまゆ
まひとつうけよ
ぢらひやる、一
まひとつうけよ
まひとつうけよ

きみをのみおもひこしげのしらやはまハ
いつかはゆきのきゆるときのある可
こしなるひとにつかはしける能
徒無
ぢらゆき無
おもひやるこしのしらねのしらねども能
ひとつよもゆめのこえぬよぞなき普那



ときはなるまつのみどりもはるくれ
われみてもひさしくなりぬすみよし
れきのひめまついくよへぬらむ

支能者
志能者
介利

・2首を書く（詞書・読人は書かなくてもよい）（料紙可及び料紙貼り付けも可）

まよひだれの

七
五

情事

卷之二

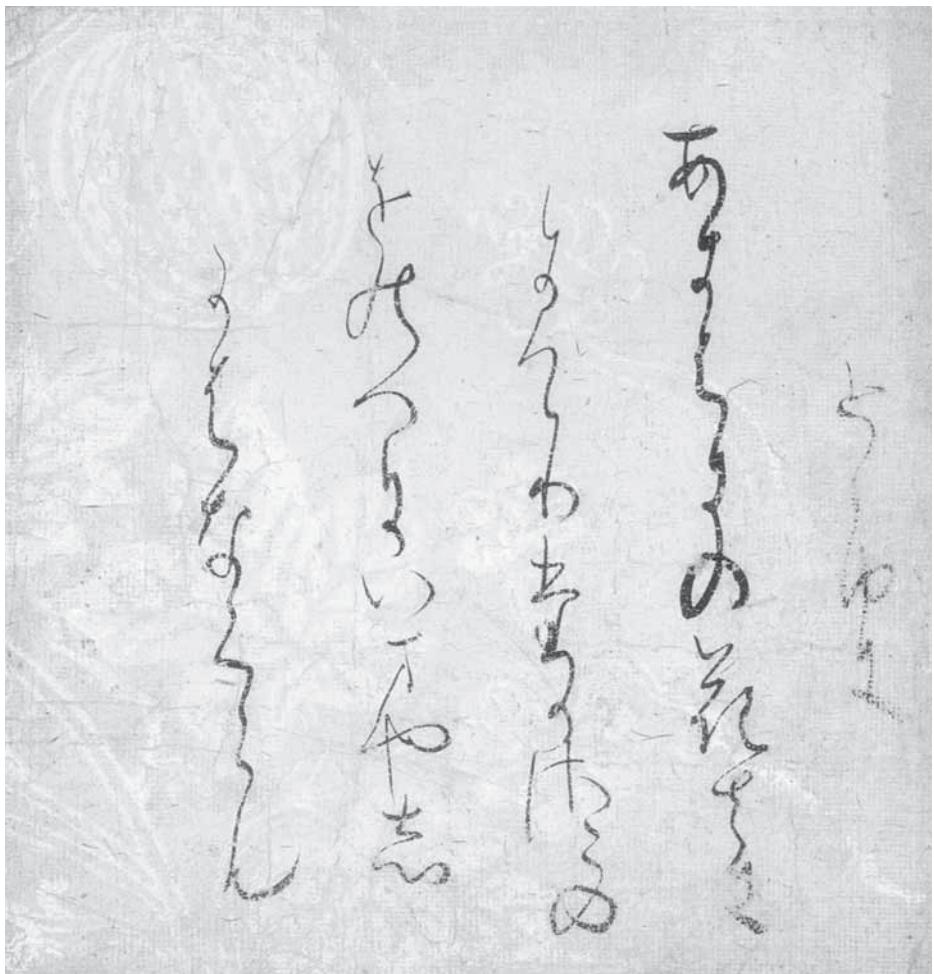
廿九の花向葉をはれこゑふ
15.

15.

支
きみならでたれにかみせむゝめの／はないろをもかをもしる人ぞ／しる／暗ふ山にてよめる／貫之
多爾可者那移平毛可
むめの花匂春辺はくらふ山やみ／にこゆれどしるくぞありけ／る
無九三爾流曾利介流

<原寸大>

△原寸大



としゆき 支

あきはぎの花さき 支

にけりたかさごの 支

をのへにいまやし 支

かはなくらん 可

ご注意!!

名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- ・創作は○○書と書く。
- ・(かな部・かな条幅部は印のみも可)
- ・(かな部・かな条幅部は印のみも可)

- 料紙可
たて12.8センチ×よこ12.5センチ原寸大
枠を半紙にとり、その中に書くこと。
印のみも可(枠外に押印)
落款は枠外に書く。○○臨
料紙を裁断して貼付してもよい。

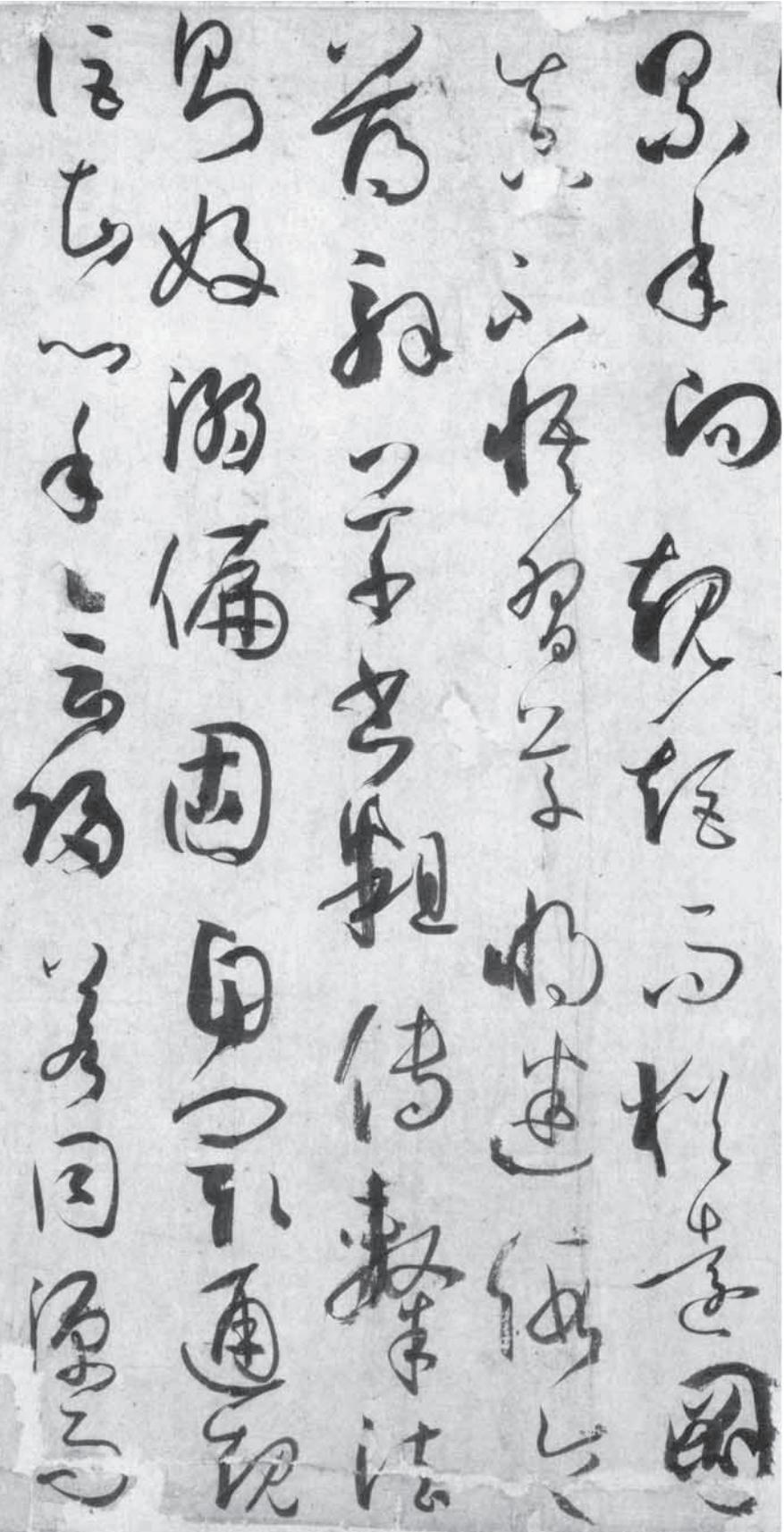
奇采於隨州贊治贈使持節散常侍車騎大將軍和雅
州贊治贈使持節散常侍車騎大將軍和雅
儀同三司膠涇二州

奇采於隨珠。祖和。雍州贊治贈使持節散常侍車騎大將軍／儀同三司膠涇二州



十一月 日金紫光祿大夫檢校刑部尚書上柱國魯郡開國公顏真卿謹奉書于右僕射定襄郡王郭公閣下。蓋太上有立德。其次有立功。是之謂不朽。抑又有立德其久有立功。是之謂不朽。抑又

十一月 日金紫光祿大夫檢校刑部尚書上柱國魯郡開國公顏真卿謹奉書于右僕射定襄郡王郭公閣下。蓋太上有立德。其次有立功。是之謂不朽。抑又



累年。向規矩而猶遠。圖／眞不悟。習草將迷。假令／薄解草書。粗傳隸法。
則好溺偏固。自閼通規。／詎知心手會歸。若同源而

●篆刻

【二月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

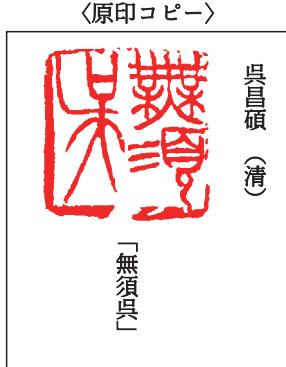
(ノ)課題による語句

- (1)原印自由
(2)原印の際、原印のコピー添付

- ②創作 語句自由

- 印面の大きさは3.2cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
○印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
○創作、篆刻とも応募は一人一点。

1月号 篆刻課題



◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏名)を入れる。

727号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

篆刻

<特選>



「明月前身」

創作



「登岳陽樓」

(篆刻)	
特選	小野寺幸喜
佳作	(品賞)
入選	(品賞)
(落選1名)	
(創作)	
特選	中島義則
佳作	(品賞)
入選	(品賞)
(選外なし)	

◎篆刻部総評

篆刻、創作ともしっかりと原印を観察し、臨摹している。さらに底辺を拡充したい。

印面全体に無理なく4文字、しっかりと収めている。その手腕見事。

篆刻、創作ともしっかりと原印を観察し、臨摹している。さらに多くの作品の応募を期待し、篆刻部の底辺を拡充したい。

(大峰評)

1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

1か月の購読部数が
送 料

十六時に時間の変更しております。
コロナ禍の中、当分の間十時

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
東京都千代田区
東神田一ー一六一七
101-0031
電話(03)3861-1954
FAX(03)3862-1954
振替 00150-4-135055
ホームページ http://www.lmcs.co.jp/shohei/

令和三年十二月二十五日印刷
令和四年一月一日発行

定価 一部 七五〇円

編集兼 发行人	辻元洋一(大雲)
アーティスト 印 刷	株式会社リンクス
印 刷	小沢写真印刷株式会社
發行所	公益財團法人書道芸術院
發行所	東京都千代田区東神田一ー一六一七 東神田プラザビル三階 (03)3861-1954 (03)3862-1954 振替 00150-4-135055 ホームページ http://www.lmcs.co.jp/shohei/